

第 1 学 年 社 会 科 シ ラ バ ス

1 各分野では、どんな力をつけようとしているのかな？～社会は社会人になるための学習～

◆社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

○地理的分野では、人間はどんな環境条件の下にどんな社会を築き、現代社会にはどんな社会が見られるのかについて学ぶことを通して、日本の国土や世界を認識すること。また、事象を地域的観点から考えることで空間に関わる思考を持たせるために学習するのです。そして、これらの学習を通して、地域調査など具体的な活動を通して地理的事象（生活環境や気候、地形、土地の風土や文化、風習など）に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する能力と態度を育てることを目指しています。

○歴史的分野では、「歴」とは過去の出来事をさし「史」はそれを記したものをいい、資料を仲立ちに過去を再構成したものが歴史です。人間は常に過去の事象を学んで、現在のある姿の由来をとらえ、未来への指針を得ているために学習するのです。そして、これらの学習を通して、具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多角的に考察し公正に判断する能力と態度を育てることを目指しています。私たちの暮らす現代社会を形成してくれた多くの「人」を学び、その功績に関心を持つことも良き社会人になるために必要な知識です。

○公民的分野では、義務教育9年にわたる社会認識の教育の成果を総合し完結させることにより、生徒一人一人が自立した社会人として生きることができるための資質の基礎を育成するために学習するのです。そして、これらの学習を通して、社会的事象を確実な資料に基づいて様々な角度から考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断する能力と態度を育てることを目指しています。

2 社会科の観点別評価

◆評価の観点

○知識・技能

我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

○思考・判断・表現

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

○主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

◆評価の方法

- ・発表やグループワーク等による授業への参加態度、プリント等への取り組み
- ・自分で工夫した勉強
- ・定期テスト → 問題別に点数を集計

◎ 主体的に学習に取り組む態度の評価について

主体的に学習に取り組む態度には「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」があります。授業態度、提出物、テストの点数等、様々な評価資料を基に、総合的に評価をします。

4 1年生では、どんなことを学習するのかな？

月	分野	章	節	時数
4 5	地理分野	第1編 世界と日本の姿	第1章 世界の姿	8
			第2章 日本の姿	7
5 7 9		第2編 世界のさまざまな地域	第1章 世界各地の人々の生活と環境	11
			第2章 世界の諸地域	30
			1節 アジア州―急速な都市の成長と変化―	
			2節 ヨーロッパ州―国どうしの連合による変化―	
			3節 アフリカ州 ―国際的な支援からの自立に向けて―	
			4節 北アメリカ州 ―多くの人々をひきつける地域―	
			5節 南アメリカ州―開発の進展と環境問題―	
			6節 オセアニア州―強まるアジアとの結びつき―	
10 11	歴史分野	第1章 歴史へのとびら	1節 歴史をとらえる見方・考え方	4
			2節 身近な地域の歴史	4
12 1		第2章 古代までの日本	1節 世界の古代文明と宗教のおこり	6
			2節 日本列島の誕生と大陸との交流	4
			3節 古代国家の歩みと東アジア世界	10
1 2		第3章 中世の日本	1節 武士政権の成立	10
			2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	11